

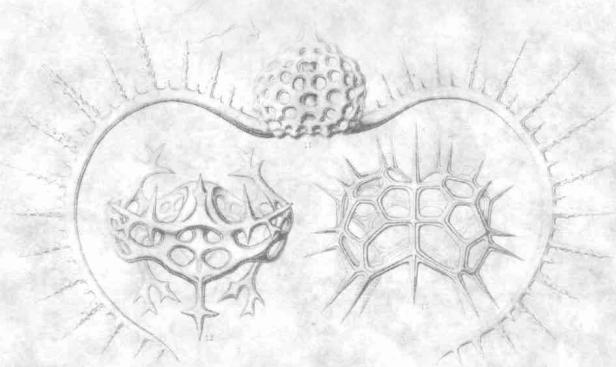
山口泉 上巻
旅する人びとの国



山口 泉

する人びとの国

上 卷



山口 泉（やまぐち いずみ）

1955年7月28日、長野県に生まれる。1977年、『夜よ 天使を受胎せよ』で、第13回太宰治賞・優秀作。1980年、東京芸術大学美術学部芸術学科中退。1984年、第2長篇『吹雪の星の子どもたち』（径書房）が刊行され、続いて、7年間の歳月を費した2,500枚の第1長篇『旅する人びとの国〈上・下〉』（筑摩書房）が刊行される。

旅する人びとの国〈上巻〉

一九八四年九月三十日 第一刷発行

著 者 山 口 泉

発行者 布川角左衛門

印刷 多田印刷

製本 積信堂

発行所 筑摩書房

東京 神田小川町二ノ八
振替 東京六〇四一二三
電話 東京三九一六五（営業）
三九四一六二（編集）

乱丁・落丁本の場合は、御面倒ですが小者読者保証に御送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

旅する人びとの国・上巻／目次

この巻のおもな登場人物

著者前言——オーロラ自由国初代大統領・知里永による

5

第一部 天使

第一篇 真冬

第一章 冬の帰りみち

(一) 星^{ホトナリ}ギムナジウム前停留所 14

(二) 乗客たち、"若くしてすでに疲れた……"

17

(三) つかのまの静かな冬 24

第二章 あけぼのの空のための鍵

(一) 博愛の町 28

(二) 《退屈撲滅委員会》その素貌と主張 33

(三) かりそめの共和国 40

(四) 名づけければ、"感情物質" 48

(五) 帰りみちの終わり、ちかくに―― 53

第三章 サンタのいる寄宿舎

(一) 明るくて孤りの正午 59

(二) 風景を構成する人びと 60

(三) 屋根裏のサンタたち・その生活と思想 65

第四章 緑の騎士と茶色い騎士

(一) 飛行天使寺院・観光案内 70

(二) 英雄的な騎士たち 74

(三) 不肖の騎士たち 77

第五章 デカブル十二月の仲間たち

(一) 《炭素館》の人びと 84

(二) 二人目の少女 92

(三) 人形芝居——大怪獣ニードヘックの巻 98

(四) 思いがけない出来事 104

(五) その日の最後の客 118

第二篇 冬の終わり

第六章 湖のある町へ

(一) 昂スパンという町 130

(二) 荒地の船団 137

(三) 活劇、もちろん非常に勇ましい—— 149

(四) 黄金入滅式 156

第七章 鉱物の食卓から

(一) ゼム氏邸 170

(二) すこしだけ、調子はずれの宴 175

(三) 食べられない御馳走なんて…… 189

(四) “招ばれない客ほど、宴会には来なくなる” という、カムチャダル人の諺 201

第八章 夜の《見えない政府》

(一) 昼男とユリオと夜男 208

(二) 家畜小舎としての世界 217

(三) 見える政府と見えない政府 229

第二部 旅程

第三篇 春の初め

第九章 緑の天文台

(一) 春を迎える祭り 250

(二) シサムとキサラ 261

(三) 帰りついた寄宿舎で 270

(四) 小さな仲たがい 280

(五) 映画会が終わって 290

(六) 英単語——twilight 298

第十章 ありふれた日曜日

(一) そのまえの日曜日 301

(二) その日曜日の朝 309

(三) その日曜日の昼 316

(四) その日曜日の夜 326

(五) その日曜日の真夜中 330

第四篇 春が、夏へ

第十一章 黄昏の子どもたち

- (一) 暗がりの繭のなかで 338
 - (二) 最新の、極秘情報によれば…… 341^I
 - (三) 人形芝居、それにとりかかるまえに 350
 - (四) 人形芝居——一本腕と二本腕の国の巻 354
 - (五) さらに最新の、超極秘情報によれば…… 359
 - (六) 妖精^{フェアリー}の国 364
 - (七) 薄明のロンド 372
 - (八) しばし、星^{ホトホリ}の地の霜に別れを 375
- 第十二章 オーロラの島・生成
- (一) バイゲンチリチュプ海峡を越える 379
 - (二) 要塞の島を偵察する 386
 - (三) 要塞の島に接近する 390

(四) 要塞の島に上陸する。少年大統領・マンシヨ三

郎とその幕僚たち、雨あがりの丘に立つ 394

(五) 思いがけない再会、あらたな来訪者たち 401

第十三章 オーロラの島・栄光

(一) 透、夕暮れの島を散策する 405

(二) オーロラ、燃えたち——《緑の星の脳》の島、
いま紅さし指共和国現代史の焦点となる 409

(三) 祭り。《われらの島》と《親たち・子たちの島》 417

旅する人びとの国・下巻／内容

第二部 旅程（承前）

第四篇 春が夏へ（承前）

第十四章 オーロラの島・崩壊

第十五章 古風な恋あるいは夜の子どもたち

第三部 王国

第五篇 真夏

第十六章 万物の腐敗する季節

第十七章 人形芝居——運命劇の巻

第十八章 夜のない星

第十九章 《人間の屑の宮殿》

第二十章 世界最悪の人間 前篇

第二十一章 世界最悪の人間 後篇

第二十二章 宇宙から棄てられた児

終章 祝祭の星

後記

この巻のおもな登場人場

——知里永・創作ノート（一九××年）より

＜少年たち・青年たち＞

工月透……………十七歳。星ギムナジウム二年生。

立花尋季……………十七—十八歳。同右。

錦城

瀬尾

風間

須藤

甘太郎

蟹村

鳥貝教諭

星ギムナジウム生徒。《茶色い騎

士団》星ギムナジウム配属幹部。

星ギムナジウム生徒。

星ギムナジウム生徒。寄宿舎在住。

星ギムナジウム社会・経済学教師。

寄宿舎・生徒監。

栗生虹児……………十七歳。《委屈撲滅委員会》主宰。

湖のある町のゼム……………二十一歳。昂市の鉱物加工業者。

万有の知性《銀河頭脳》の探求者。

昂の宗教家。《世界破滅促進會議》

シラトリ・ユリオ……………十四歳。昂の数学者。

新城昼男（蛭男）……………二十四歳。昂の男妾。

新城夜男……………昼男の兄。自称、画家。

名誉議長。五十代なかば位。

星の政治キャバレー《炭素館》店主。

ペトロ・ポイナで活躍する人形師。

現代最高の技術を駆使した人形芝居を、一人で演じきる力をもつ。

故人。《緑の騎士団》最高指導者（旅団長）。若い純正麵パン主義者たちの偶像的存在。

桶口頭太郎……………六十歳。桶口薩絵の父親。物語の初めでは星県資源エネルギー局長官。

マンシヨ三郎……………十五歳。ツエルボ・デ・ヴェルダ・ステーロ絶対自由共和国、大統領。

ミカエル瞬太……………十五歳。同共和国、副大統領。

竹宮嬢児……………純正麵パン主義《分解派》星雲グル

ープ領袖（突撃隊長）。

〈少女たち〉

樋口蔭絵……………十九歳。星^{ホトホリ}大学人文社会学部二年

生。

真知（黄燐マツチ）……………十七歳。星^{ホトホリ}女学院二年生。栗生

虹児の恋人。

北澄ジュラ……………本人の言によると二十歳らしい。そ

のほかは未詳。

*

射的場のミツちゃん……………十六歳。昂^{スベル}の少女。

北澄シサム

北澄キサラ }……………北澄ジュラの“妹”。

*

ミミ子……………十五歳。《妖^{フェアリー}精の国》の漂泊民。

*

マンシヨすみれ……………十四歳。三郎の妻。ツエルボ・デ・

ヴェルダ・ステーロ絶対自由共和国、

国家委員。

ミカエルゆかり……………十四歳。瞬太の妻。同右。

カリスト……………年齢は不詳。“島”の先住者たちの

娘のひとりとして推測される。

〈子どもたち〉

数多い子どもたち。祝福された、あるいは傷つけられ、見
棄てられ、忘れられた子どもたち。

旅する人びとの国へ上巻

——わが国の北辺、山峡地帯の内奥に位置
する^{ホトキリ}星^{ホトキリ}県の、齢わかい夢想家たちの物語

al Patro

al Patrino